

## 学位記授与式 式辞

日向灘から吹く風の冷たさも和らぎ、降り注ぐ日差しにも春の訪れが感じられる季節となりました。

今日のこの佳き日に、学部卒業生 102 名、別科助産専攻修了生 15 名、大学院博士前期課程修了生 4 名、計 121 名の方々がこの学び舎を巣立って行かれます。

コロナ禍の中、様々な困難を克服し、この日を迎えられた皆さんに、本学の教職員を代表して、心からお祝いを申し上げますとともに、皆さんのこれまでの努力に深く敬意を表します。

また、皆さんの本日の門出を心待ちにされ、物心両面で支えてこられたご家族や関係者の方々にもお祝いと感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

さて、皆さんは、在学中の約 2 年間あるいは 1 年間を、100 年に 1 度と言われる感染症のパンデミックの中で、過ごされました。

新型コロナウイルス感染症の第 1 例が 2019 年の 12 月に報告されてから 2 年余ですが、現在も、新たな変異株が出現し、ワクチン接種や治療薬の開発はあるものの、収束する気配は見えない状況です。

しかし、このパンデミックは、「学び」とは何か、という根源的な「問い」を、私達に投げかけたように思います。

皆さんは、感染拡大防止の原則を守り、様々な制約がある中で、自ら積極的に課題に取り組み、それぞれの課題を解決することを通して、知識を得るだけでなく、様々なことを体得されたことでしょう。

これまで何の疑いもなく普通にあった日常を、改めて見つめ直すことができたのも、その一つだと思いますし、

普段何気なく見過ごしていた、自分に取って「欠けがえのないことは何なのか」など、多くのことを掴みとれたことと思います。

さて、時代は平成から令和へと移り変わりましたが、現代社会は、5 年先、10 年先の未来を予測することできない、不透明で、不確実な時代となっています。

科学、技術の進歩に伴い、世界のグローバル化は進みましたが、地球の温暖化による環境破壊や大規模な自然災害の発生、現在の新型コロナウイルスのような長引く新型感染症の流行があります。さらには、

日々ニュースで放映されているウクライナでの戦禍や難民の発生など、ひとの生命と社会の仕組みを脅かし、人類の生存の持続性が危ぶまれるようなことが、年々増大してきております。

このように先行きが不透明で変化の激しい時代にあって、皆さんは、これから先も予測困難で、想定外なことに多々遭遇することとと思います。

そのような時こそ、私達が本当に必要とするものは何か、そして、本当に大切なものは何かを、これまでの価値観やものの見方に囚われることなく、様々な情報を十分に吟味し、自ら考えることが大切です。

本学も開学して 25 年、四半世紀が経過しようとしています。  
多くの有為な先輩方が医療保健分野の一翼を担い活躍しておられます。  
道に迷った時、苦しい時には、どうぞ母校に立ち寄り、先輩と語り合い勇気をもってください。

皆さんは、この大学で学んだことに自信と誇りを持ち、看護や保健分野のプロフェッショナルとして、その使命を果たすととともに、新しい価値を生み出し変革をもたらす人材として活躍していかれることを、心より祈念して、私からの式辞といたします。

令和 4 年 3 月 16 日

公立大学法人宮崎県立看護大学 学長 平野かよ子